

研 修 区 分 表

令和8年8月25日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (6 時間)	6	—	—	6	到達目標 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもって実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
(1) 多様なサービスの理解	3	—	—	3	(講義の内容) ・介護保険サービス（居宅、施設）の概要 ・介護保険外のサービスについて 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	—	3	(講義の内容) ・介護職の仕事内容や働く現場の理解をする ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する ・チームアプローチの必要性と具体的な連携方法を理解する 上記の事項について、介護職が働く現場や仕事内容を具体的に行使が講義します。 (演習の方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	4	5	—	9	(到達目標) 介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という、介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。
(1) 人権と尊厳を支える介護	1	4	—	5	(通信学習課題の内容) ・介護における権利擁護と人権尊重 ・介護における尊厳の保持 ・介護職に求められる人間性と生活観 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーションの理念 ・虐待防止・身体拘束 ・高齢者、障害者虐待防止法について (講義の内容) ・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 上記の事項について講師が講義します。

(2) 自立に向けた介護	1	1	—	2	(通信学習課題の内容) ・ 介護における自立 ・ 自立への意欲と動機づけ ・ 残存能力の活用と重度化の防止 ・ その人らしさの理解 ・ 介護予防 (講義の内容) ・ 自立支援 ・ 介護予防 上記の事項について講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッションを適宜実施します。
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	—	2	(講義の内容) ・ 人権について、人権への取組 ・ 人権に関する基本的な知識 上記の事項について講師が講義します。
科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
3 介護の基本 (6 時間)	3	3	—	6	(到達目標) 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	0.5	—	1.5	(通信学習課題の内容) ・ (講義の内容) ・ 介護環境の特徴 ・ 介護の専門性と求められるもの ・ 多職種連携の目的 上記の事項について講師が講義します
(2) 介護職の職業倫理	0.5	1	—	1.5	(講義の内容) ・ 専門職の職業倫理 ・ 介護福祉士の倫理 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッションを適宜実施します。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	—	1.5	(講義の内容) ・ 介護における安全の確保 ・ 事故予防、安全対策 ・ 感染対策 上記の事項について、講師が講義します。
(4) 介護職の安全	0.5	1	—	1.5	(講義の内容) ・ 介護職の健康管理 ・ ストレスマネジメント ・ 感染予防など 上記の事項について、講師が講義します。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)	1.5	7.5	—	9	(到達目標) 介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、各専門職の役割・責務について、その概要のポ

					イントを習得できるようになる。
(1) 介護保険制度	0.5	5	-	5.5	(講義の内容) ・介護保険制度創設の背景の理解、制度の目的・動向 ・制度の基本的な理解 ・制度に関わる組織の役割、財政の理解 上記の事項について、講師が講義します
(2) 医療との連携とリハビリテーション	0.5	1.5	-	2	(講義の内容) ・介護における医療の実情と経過の理解 ・介護職と看護職の役割・連携の理解 ・リハビリテーションの理念 上記の事項について、講師が講義します (演習実施方法) バイタルチェックなどを講師の指導のもとと実施します。
(3) 障害者総合支援制度及びその他の制度	0.5	1	-	1.5	(講義の内容) ・障害者福祉制度の理念、概念の理解 ・障害者福祉制度の基本的な仕組みの理解 ほか 上記の事項について、講師が講義します
科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習の課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)	3	3	-	6	(到達目標) 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解する。
(1) 介護におけるコミュニケーション	1.5	1.5	-	3	(講義の内容) ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割の理解 ・コミュニケーションの技法(言語、非言語) ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	1.5	1.5	-	3	(講義の内容) ・記録における情報の共有化 ・報告・連絡・相談の意義と目的 ・コミュニケーションを促す環境 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) 講師の指導のもと、ロールプレイングを実施します。
6 老化の理解 (6 時間)	3	3	-	6	(到達目標) 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。
(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	1.5	1.5	-	3	(講義の内容) ・老年期や高齢者の定義 ・身体的老化現象と日常生活への影響 上記の事項について、講師が講義します。

(2) 高齢者と健康	1.5	1.5	-	3	(講義の内容) ・ 高齢者の症状・疾患・疾病と日常生活上の留意点 ・ 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 上記の事項について、講師が講義します。
7 認知症の理解 (6 時間)	3	3	-	6	(到達目標) 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。
(1) 認知症を取り巻く環境	0.5	0.5	-	1	(講義の内容) ・ 認知症ケアの理念、認知症ケアの視点 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	1	1	-	2	(講義の内容) ・ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイント ・ 認知症の定義、認知症に類似した症状、健康管理 上記の事項について、講師が講義します。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	1	-	2	(講義の内容) ・ 認知症の生活障害、心理・行動の特徴 ・ 認知症の人への対応 上記の事項について、講師が講義します。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
(4) 家族への支援	0.5	0.5	-	1	・ 家族介護者の心理過程 ・ 介護職が行う認知症の家族への支援 上記の事項について、講師が講義します。
8 障害の理解 (3 時間)	1.5	1.5	-	3	(到達目標) 障害の概念と ICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
(1) 障害の基礎的理解	0.5	0.5	-	1	(講義の内容) ・ 障害の概念と ICF ・ 障害福祉の基本理念 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	0.5	0.5	-	1	(講義の内容) ・ 身体障害（視覚障害、聴覚・言語障害、運動機能障害、内部障害） ・ その他の障害の心理学的概念 上記の事項について、講師が講義します。
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	-	1	(講義の内容) ・ 家族への支援 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッションを適宜実施します。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)	63	12	-	75	(到達目標) 介護技術の根拠となる人材の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全解除等の介護が実施できるようになります。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得します。

(1) 介護の基本的な考え方	2	2	-	4	(講義の内容) ・倫理に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1.5	1.5	-	3	(講義の内容) ・学習と記憶、感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動、からだの状態がこころに与える影響 上記の事項について、講師が講義します。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1.5	1.5	-	3	(講義の内容) ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 ・自律神経と内部機関に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ほか 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッションを適宜実施します。
科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
(4) 生活と家事	3.5	3.5	-	7	(講義の内容) ・生活と家事の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援の理解 ・多様な生活習慣、価値観の理解 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッションを適宜実施します。
(5) 快適な居住環境整備と介護	3.5	3.5	-	7	(講義の内容) ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとディスカッションを適宜実施します。
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	-	-	6	(講義の内容) ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 上記の事項について、講師が講義します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもとロールプレイング及び衣類着脱等の実技演習を実施します。

(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	-	-	6	(講義の内容) ・ 移動・移乗に関する基礎知識、移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・ 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 上記の事項について、講師が講義します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び移乗・移動の介護に関連する実技演習を実施します。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	-	-	6	(講義の内容) ・ 食事に関する基礎知識、食事環境の整備と食事に可燃する用具の活用方法 ・ 食事に関連したところとからだのしくみ ・ 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 上記の事項について、講師が講義します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び食事の介護に関連する実技演習を実施します。
科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
(9) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	-	-	6	(講義の内容) ・ 入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連したところとからだのしくみの理解 ・ 入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法の理解 上記の事項について、講師が講義します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び入浴の介護、清潔保持に関連する実技演習を実施します。
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	-	-	6	(講義の内容) ・ 排泄に関する基礎知識、排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ・ 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 上記の事項について、講師が講義します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び排泄の介護に関連する実技演習を実施します。

(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	-	-	6	(講義の内容) ・睡眠に関する基礎知識、睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 上記に事項について、講師が講義します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び実際に安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する実技演習を実施します。
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	-	-	3	(講義の内容) ・終末期に関する基礎知識、生から死への過程の理解、死に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、グループディスカッションを適宜実施します。
(13) 施設実習	-	-	-	-	
(14) 介護過程の基礎的理解	6	-	-	6	(講義の内容) ・介護家庭の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ 上記の事項について、講師が講義します。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要
	通学	通信	実習	計	
(15) 総合生活支援技術演習	6	-	-	6	(講義の内容) ・生活の各場面における介護事例の検討 「高齢分野」から事例を選択して実施します。 (実技実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
10 振り返り (4 時間)	4	-	-	4	(到達目標) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、修了後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図ります。
(1) 振り返り	3	-	-	3	(講義の内容) ・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 上記の事項について、講師が講義します。

(2) 就業への備えと研修修了後 における継続的な研修	1	-	-	1	(講義の内容) ・ 継続的に学ぶこと ・ 研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介。 上記の事項について、講師が講義するほか、事業所における介護職の体験談を聞いていただきます。 (演習実施方法) グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
	研修時間計				
	通 学	通 信	実 習	計	
	92	38		130	

※記載内容は、要綱の別紙２の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けて分かりやすく記載すること。

なお、実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は３０分単位とする。